

特別寄稿

東北学院の歴史に輝く 押川方義墓畔の人々を語る

花輪 庄三郎 (その2)

「押川方義之墓」 域内の五基

現在、「押川方義之墓」の墓域内には、その背後をまもるかのよう



壮年期の吉田龜太郎

この明治10年という年は、明治の歴史に顕著な段階を形づけた年

吉田龜太郎の墓

自叙によれば「吉田士族の爵格なる家庭に生れた」とある

16才の年(明治6年)母方の伯父、岡本駿輔をたよって上京し

のま長く拘泥するをゆるぎなき時につくしたと云ふ論だが、これに

この押川の病気が、伝道上の不思想な契機となつて、治原山

見ない、ほとんど機動的な勢いで基督教は全国を風靡した時代



吉田龜太郎の墓

山本敬先生を偲んで

山本敬教授は、講義や研究のかたわら最近系統的に職務・編集注訳の

ひたひたと死は吾にしも迫れるや 親しき友の計を聞きてより

山本敬先生ご遺族慰励金についてお願い

- 各位 1、一口五百円とし、幾口でも結構です。 2、送付方法 仙台市土樋一丁目3の1 東北学院大学英語文学研究所内 故山本敬先生ご遺族慰励金委員会(本館三階 西山良雄宛) 3、切9月末日